

# 地域教材の開発と実践

大川 光基

## 1. はじめに

現在の高等学校の『学習指導要領』には外国語科の目標について以下のように記述されている。

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」

英語の授業をするうえで、ことばと関わりのある文化への理解を深めることが大切である。平成25年度から実施されている新学習指導要領においても、言語や文化に対する理解が指導目標に明記されている。また、教材の内容に当たった配慮事項として、以下のように記されている。

「教材については、外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。

ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

エ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。」 (太字は筆者による)

学習指導要領にあるように、高校生に外国の文化理解だけでなく、日本文化の理解を促すような教材を生徒の発達段階や関心に応じて使用することが必要になってくる。本稿では日本文化への理解や関心を促すために私が作成した地域教材を使って、実践を報告したい。

## 2. 文化理解のための文化題材について

教材を作成するにあたってまず、必要なことはその素材が教育目的にかなったものであるか、という視点である。この点において、高等学校の英語の必修科目であるコミュニケーション英語Ⅰで使われている検定教科書12社12冊を分析対象とし、異文化理解教育の視点から文化題材を考察した。私は英語教科書における文化題材の意図・ねらいをレッスンごとに、他文化理解、自文化理解、比較・対照、国際理解の4つに分類した。その結果から他文化理解が全レッスンの約34%でもっとも多く、自文化理解(約31%)、国際理解(約30%)、比較・対照(約6%)という順であることがわかった。この数値から、現在の学習指導要領では日本文化に関する題材が多く取り上げられていることがわかる。ただし、教科書は全国共通であるため、日本を代表するような文化や人物が取り上げられていることが多く、身近な地域を扱った教材は極めて少ないように思われる。そのため、身近な地域の教材を教師が作成して生徒に教えることも、日本文化を発信するのに有効な活動だと考えられる。吉田(2006)はその成功例を報告している。本稿においても地元で活躍した坂村真民に関する教材を扱った授業実践を報告する。

## 3. 文化題材の開発と実践

学習指導要領の主旨に沿い、自文化理解を深めるための地域教材を私なりに作成し、実践したので報告したい。

私が作成した教材では砥部町で活躍した有名な詩

人、坂村真民について説明し、彼の書いた詩の一部を紹介している。身近な地域の日本文化を理解させ、発信させることを目的とした教材である。

次の例は高校生のアキと ALT としてカナダから日本に来たジェーンの会話である。

Aki: Hi! How are you, Jane? It's been three weeks since you came here. Have you ever been to any places in Ehime?

Jane: Yes, I have actually. I visited Matsuyama Castle just the other day.

Aki: Did you enjoy it there?

Jane: Yes, I did. It was a lot of fun.

Aki: Have you ever been to the Sakamura Shinmin Museum?

Jane: No, I have never heard of it. Who is Sakamura Shinmin?

Aki: He is a very famous poet. He wrote many poems in his life and a lot of works are exhibited in the museum in Tobe Town.

Jane: Really? Could you tell me his poems?

Aki: Sure. I have one of his books. Here's a collection of his poems for living a whole-hearted life. I'll share one of them with you; and take a look at this.

### Pray, and Any Flower of Your Will Come Out

When (Mother was) in a painful position,  
Mother always said this saying to herself.  
I also began to chant the words one day  
without being conscious of it.  
Every time I recited them since then,  
I felt, to my wonder, a flower of mine coming out, one after another.

Jane: How wonderful! I am really moved by the spirit of his inspirational work.

2013年12月11日・13日、高校3年生の普通科23人を対象に上記の自作教材を用いて2時間の授業を実施した。生徒は英語が苦手と特に異文化に興味はないように思われた。初めに全文をプリン



トに書き写させ、それから英文の意味を考えさせ、地元で活躍した詩人である坂村真民に関する文化的な情報を生徒に与えながら授業を進めた。最後に本文に関する質問をして内容を確認し、アンケートを実施した。アンケート結果は以下のとおりであった。

(アンケート)

- (1) この題材を読んで、地域の文化について理解が深まりましたか。
- |             |              |
|-------------|--------------|
| 5---4人(18%) | 4---10人(43%) |
| 3---6人(26%) |              |
| 2---2人(9%)  | 1---1人(4%)   |
- (2) この題材はおもしろかったですか。
- |             |              |
|-------------|--------------|
| 5---2人(9%)  | 4---10人(43%) |
| 3---8人(35%) |              |
| 2---2人(9%)  | 1---1人(4%)   |
- (3) この題材を読んで日本の文化の理解が深まりましたか。
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 5---5人(22%) | 4---8人(35%) |
| 3---7人(30%) |             |
| 2---2人(9%)  | 1---1人(4%)  |
- (4) この題材を読んでもっともっと日本の文化について知り、外国人に紹介したいと思いましたか。
- |             |             |
|-------------|-------------|
| 5---5人(22%) | 4---5人(22%) |
| 3---9人(38%) |             |
| 2---2人(9%)  | 1---2人(9%)  |
- 5 (とても)    4 (少し)    3 (どちらでもない)  
2 (あまり)    1 (いいえ)

(1)の質問から、約6割の生徒がこの教材での学習を通じて、地域への理解を深めたことがわかる。生徒にとって、坂村真民にはなじみがあるものの、その詩を英語で読むのは初めての経験でとまどったかもしれない。しかし、そのことによりその詩が日本人以外にも読まれていたことがわかったと思われる。

(2)の質問から、半数の生徒はおもしろいと感じているが、どちらでもないと感じた生徒が想定以上に多いことがわかった。このことは、坂村真民になじみはあるものの、格別興味がない生徒もいることを示唆している。

(3)の質問からは、約6割の生徒が日本の文化の理解を深めたことがわかる。実際、大半の生徒は授業前の時点で坂村真民の詩を知らない様子だったので、授業を通して文化理解を深めたと言えるだろう。しかしながら、約3割が「どちらでもない」と答えたことからわかるように、十分に日本文化の理解が深まったと言えないことも事実だ。今後の授業の課題である。

(4)の質問については4割以上が肯定的な答えを示した。今回の実践によって興味がわいた生徒もいるが、依然どちらでもない生徒がいるのも事実である。日本文化を外国人に紹介できるように、そしてより興味がわくように指導し、教材を開発する必要があるだろう。全体的にみると肯定的な反応が多いが、どちらでもないと答えた生徒も多いので、今後も生徒の興味を引く、よりよい地域教材の開発を進めたい。

また、選択式質問だけでなく、自由記述でも感想を書かせた。以下のとおりである。

#### (生徒の感想)

- ・坂村真民の人柄のよさなどを改めて気づくことができた。
- ・1年のときには博物館へ見学に行ったけど、そのことと相まって理解が深まりました。
- ・坂村真民さんのことを英語で勉強してみると内容は難しかったけど、やっているとなんと真民さんと英語の両方の理解が深まりました。
- ・身近で知っていることを題材にしている英文のほうが、日本語に訳すことが楽しい感じがする。
- ・この題材を読んで、地域の文化について理解を深めることができました。また、「念ずれば花開く」の詩を英語に直すことができるのもわかり

ました。ほかにもいろいろな英語の詩を見てみたいと思いました。

- ・坂村真民さんは、私たちにとっては身近な人だけけれど、真民さんについて外国の方に紹介したりすることは考えたことがありませんでした。でも真民さんは心温まるすてきな詩を書いているので、素晴らしい日本の文化の1つとして紹介できたら、実際によいことだなと思いました。
- ・私も坂村真民さんのことは、よく知らなかったのですが、真民さんについて、いろいろなことを自分で調べるようになりました。この題材で知ったことを、愛媛の人たちから世界の人にまで知ってほしいです。

上記のように、多くの生徒が肯定的な感想を書いていた。坂村真民という地元で活躍した有名な詩人であっても、生徒にとっては知らないことも多く、今回の授業でその理解を深められたことがうかがえる。また、坂村真民についてもっと調べたいという生徒もいるので、今後地域の文化を発信できる生徒が増えることを期待するしだいである。

#### 4. おわりに

本稿では地元の有名人を扱った自作教材を紹介したが、扱える題材はほかにもある。上述のように教科書では多くの文化題材が扱われているので、それと関連づけるのも効果的だろう。例えば、COMET *English Communication I* Lesson 2では、世界で注目されている日本の弁当を扱っているもので、そこから地元の駅弁の教材を作ることもできる。

今後もさまざまな切り口から、生徒の興味を引けるよりよい教材の開発を進めていきたい。

#### 参考文献

- 坂村真民(1993). 『鳥は飛ばねばならぬ(英文対訳)』 東京：ぱるす出版。
- 文部科学省(2010). 『高等学校学習指導要領解説(平成22年5月)―外国語編・英語―』 東京：開隆堂。
- 吉田敏明(2006). 「地域英語教材“15 Stories of Saitama-ken”(Ver. 2)の開発と活用」『STEP BULLETIN』18, pp.177-195.